

教育スローガンに揺れる日本語, 「学習」 vs. 「学修」 1

— 「学習」「学修」を前部要素とする合成語 —

渡邊ゆかり

広島女学院大学国際教養学部

1 はじめに

平成 24 年 8 月 28 日に行われた中央教育審議会第 82 回総会において, 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)」が取りまとめられた頃より, 大学教育の現場で「学修」の 2 文字に関心が注がれるようになった。この結果, 多くの大学で「学習時間」「学習支援」といった語に代わり「学修時間」「学修支援」といった語が用いられ始めた。本研究は, このような背景を踏まえ, 「学習」「学修」の 2 語が大学教育の現場でどのように揺れているのか, その実態を明らかにすることを目的としている。本発表では, 特に「学習」「学修」を前部要素とする合成語の揺れに関する調査結果を報告する。

2 分析方法

本調査では, まず, 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)」の資料編を除く部分 (以下「中教審答申」と称す) において, 「学習」「学修」を前部要素とする合成語にどのようなものが存在するかを調べた。次に, 「中教審答申」中の「学修+後部要素」の後部要素が, 「日本語書き言葉均衡コーパス」(以下「BCCWJ」と称す), 「筑波ウェブコーパス」(以下「TWC」と称す) で, 「学習」「学修」の各々と共起する割合を調査した (BCCWJ, TWC とともに, 2014.11.02 検索)。続いて, 「TWC」の調査で「学習+後部要素」「学修+後部要素」の検索ヒット数の合計値が 1,000 件を上回った「時間」「支援」「意欲」「者」「内容」「環境」の 6 語と, 「学修」との共起度が最も高かった「成果」1 語について, 「学習」「学修」と結びついた形がタイトル中に存在する論文数を調査した (2015.01.17 検索)。最後に, CiNii Articles 登録論文の調査において, 「中教審答申」以前とこれ以降で「学修」との共起率の増加度が他より相対的に高かった「時間」「支援」「成果」の 3 語について, 「学習」「学修」と共起した形で Web 検索した場合の検索ヒット数を調査した (2015.01.18, Google 検索)。

3 調査結果

3.1 「中教審答申」中の「学習+後部要素」「学修+後部要素」

「中教審答申」中の「学習+後部要素」「学修+後部要素」の延べ語数は, 前者が 7 語, 後者が 118 語である。また, 異なり語数は, 前者が 6 語, 後者が 18 語である。このように, 「中教審答申」では, 合成語の前部要素として「学習」ではなく「学修」が主に使用されている。「学習」「学修」の後部要素として現れた語例とそれぞれの語例の出現頻度は, 図 1, 図 2 の通りである。

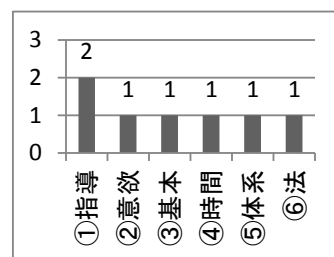


図 1. 「中教審答申」中の「学習+後部要素」における後部要素

図1, 図2のいずれにも見られる語としては、「意欲」「時間」の2語が挙げられる。これらの2語が、「学習」と結びつく例は、各1例ずつであり、「高校において(中略)学習意欲」「高校生の学習時間」のように、高校教育の学びに言及する場合にのみ用いられていた。一方、大学教育の学びに言及する箇所では、いずれも「学修」が使用されていた。本結果より、「中教審答申」では、「学習」と「学修」を、大学教育における学びかそれ以外の学びかという独自の意味規準で使い分けていることがわかる。

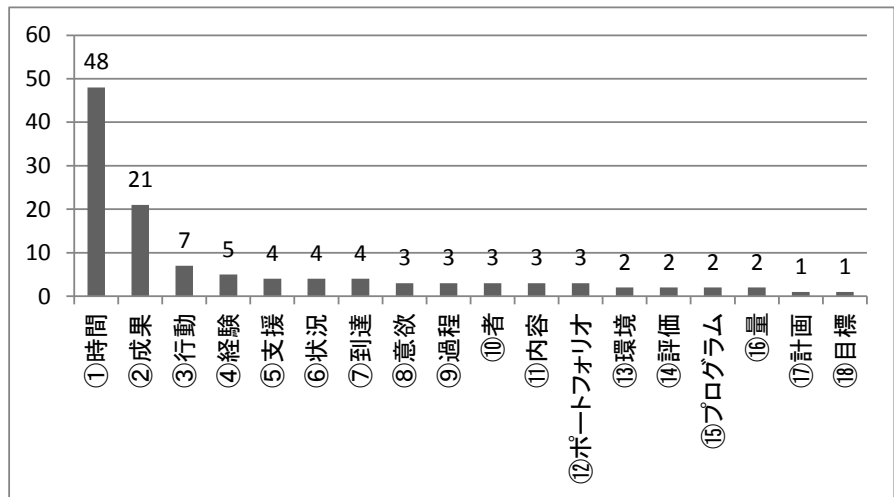


図2 「中教審答申」中の「学修+後部要素」における後部要素

3.2 「BCCWJ」「TWC」中の「学習+後部要素」「学修+後部要素」

次に、「中教審答申」中の「学修+後部要素」の各語例について、「BCCWJ」「TWC」中で、「学習+後部要素」「学修+後部要素」のいずれがどの程度多く用いられているかを調査したところ、結果は、図3, 図4の通りであった。

図3, 図4より、「中教審答申」中で「学修」を前部要素としていた後部要素はいずれも、「BCCWJ」「TWC」では、「学習」を前部要素としている数の方が圧倒的に多いことがわかる。

	(a) 学習	(b) 学修	(a) + (b)	(a)の比率	(b)の比率
①時間	33	1	34	97%	3%
②成果	31	0	31	100%	0%
③行動	10	0	10	100%	0%
④経験	21	0	21	100%	0%
⑤支援	42	0	42	100%	0%
⑥状況	47	0	47	100%	0%
⑦到達	7	0	7	100%	0%
⑧意欲	131	0	131	100%	0%
⑨過程	24	0	24	100%	0%
⑩者	237	0	237	100%	0%
⑪内容	112	0	112	100%	0%
⑫ポートフォリオ	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
⑬環境	30	0	30	100%	0%
⑭評価	5	0	5	100%	0%
⑮プログラム	25	0	25	100%	0%
⑯量	1	0	1	100%	0%
⑰計画	24	0	24	100%	0%
⑱目標	12	0	12	100%	0%

図3 「BCCWJ」中の「学習+後部要素」「学修+後部要素」

3.3 CiNii Articles 登録論文タイトル内の「学習+後部要素」「学修+後部要素」

続いて、図4の(a)+(b)の数値が1,000語を超える「①時間」「⑤支援」「⑧意欲」「⑩者」「⑪内容」「⑬環境」の6語と(a)の比率が最も低かった「②成果」が、CiNii Articles 登録論文において、「学習+後部要素」「学修+後部要素」の形でタイトル内に現れている論文数を調査した。図5-図11がこの結果である。本結果より、「中教審答申」での使用頻度が最も高かった「①時間」と2番目に高かった「②成果」は、「中教審答申」がまとめられる以前とこれ以降とを比べると、「学修」と結びつく割合の増加度が、他の語より高いことがわかる。

	(a) 学習	(b) 学修	(a) + (b)	(a) の比率	(b) の比率
①時間	1,161	16	1,177	99%	1%
②成果	550	45	595	92%	8%
③行動	107	0	107	100%	0%
④経験	249	1	250	100%	0%
⑤支援	1,198	18	1,216	99%	1%
⑥状況	756	14	770	98%	2%
⑦到達	213	1	214	100%	0%
⑧意欲	1,799	14	1,813	99%	1%
⑨過程	335	3	338	99%	1%
⑩者	7,389	3	7,392	100%	0%
⑪内容	2,349	11	2,360	100%	0%
⑫ポートフォリオ	22	0	22	100%	0%
⑬環境	1,367	14	1,381	99%	1%
⑭評価	85	4	89	96%	4%
⑮プログラム	541	15	556	97%	3%
⑯量	220	2	222	99%	1%
⑰計画	761	13	774	98%	2%
⑱目標	313	24	337	93%	7%

図 4. 「TWC」中の「学習+後部要素」「学修+後部要素」

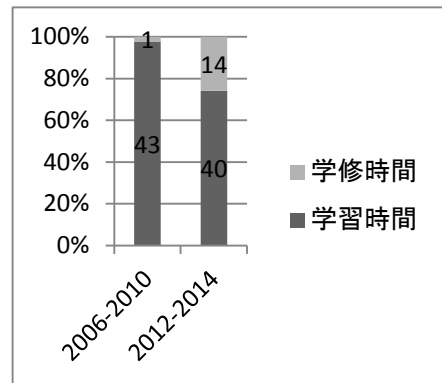


図 5. CiNii 登録論文タイトル内の「学習時間」「学修時間」の検索結果

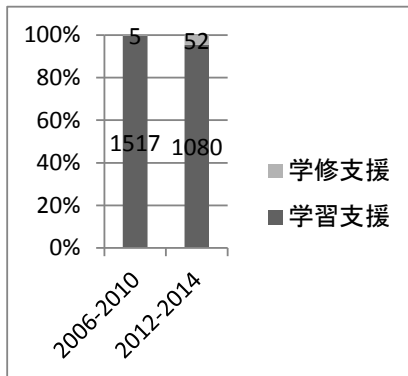


図 6. CiNii 登録論文タイトル内の「学習支援」「学修支援」の検索結果

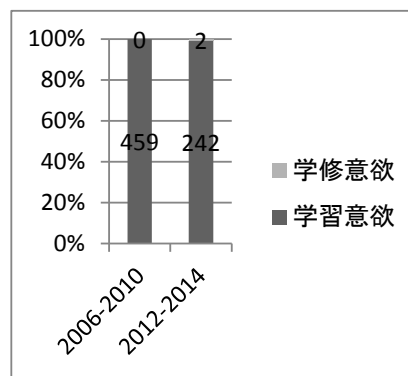


図 7. CiNii 登録論文タイトル内の「学習意欲」「学修意欲」の検索結果

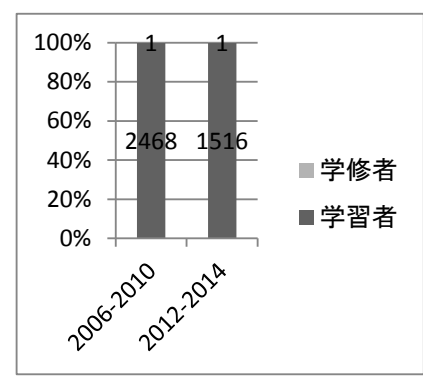


図 8. CiNii 登録論文タイトル内の「学習者」「学修者」の検索結果

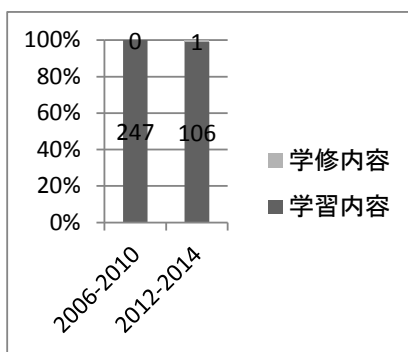


図 9. CiNii 登録論文タイトル内の「学習内容」「学修内容」の検索結果

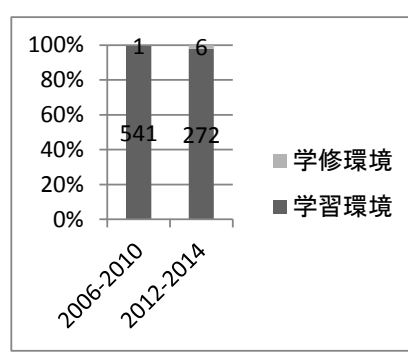


図 10. CiNii 登録論文タイトル内の「学習環境」「学修環境」の検索結果

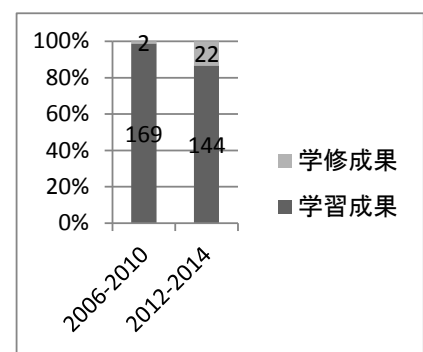


図 11. CiNii 登録論文タイトル内の「学習成果」「学修成果」の検索結果

3.4 大学関係サイト、高校関係サイトにおける「学習+後部要素」「学修+後部要素」

最後に、CiNii Articles 登録論文タイトル内の検索結果において「中教審答申」以前とこれ以降で「学修」との共起率の増加度が他より相対的に高かった「時間」「支援」「成果」の各3語について、「学習」「学修」と共起した形で Web 上の大学関係サイト、高校関係サイトを検索した時の検索ヒット数を調査した。

大学関係サイトを調査する際の検索キーワードは、例えば「学習時間」であれば、「学習時間 AND 大学 -“高校” SITE:ac.jp」と指定した。また、高校関係サイトを調査する際の検索キーワードは、同じく「学習時間」であれば、「学習時間 AND 高校 -“大学” SITE:ed.jp」のように指定した。

このような方法で行った調査結果は、次の図 12-図 14 の通りである。

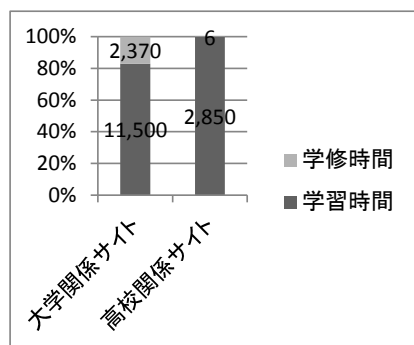


図 12. 大学関係サイト、高校関係サイト上の「学習時間」「学修時間」の検索ヒット数

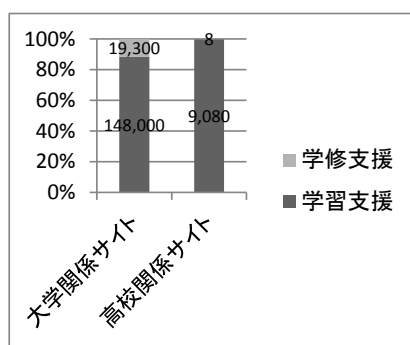


図 13. 大学関係サイト、高校関係サイト上の「学習支援」「学修支援」の検索ヒット数

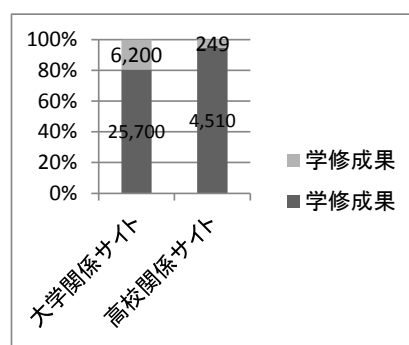


図 14. 大学関係サイト、高校関係サイト上の「学習成果」「学修成果」の検索ヒット数

図 12-図 14 より、「学修」と共起する比率は、「時間」「支援」「成果」のいずれにおいても、高校関係サイトよりも大学関係サイトの方が高いことがわかる。ただし、大学関係サイトにおいて、「学修」と共起する比率は、「時間」「成果」が 2 割程度で、「支援」はこれよりやや値が低い。また、高校関係サイトでは、「学修時間」「学修支援」の比率は、ほぼ 0%であるのに対し、「学修成果」は、1 割弱となっているが、この理由としては、学校教育施行規則では「学修」が大学か高校かに関わらず「特定の到達目標を区切りとする学びを修める」意で使用されており、ここ近年「学修成果」が大学やインターンシップといった「高校以外での学修」の成果の扱いに言及する際に使用される傾向にあることが挙げられる。

4 まとめと今後の課題

以上より、「中教審答申」で「学修+後部要素」の形での出現率の高かったものを中心に、大学の教育現場において「学修+後部要素」の使用の増加が認められることが明らかとなった。ただし、現段階では、その出現率は、「学習+後部要素」をしのぐほどではない。「中教審答申」により、「学門を修める」という本来の意味を離れ、大学での学びを指すものとして新たに出現した「学修」であるが、このような本来の意味とは異なる意味での使用は、今のところ、大学の教育現場に限られている。社会全体で見た場合、「学習」に代わる語としての「学修」の受容は限定的である。しかしながら、文部科学省の意向に沿った教育体制の変革が求められる大学の教育現場において、文部科学大臣の諮問機関にあたる中教審の教育スローガンにより「学修」の 2 文字が、徐々に、その勢力を増しつつある。今後の動向を追うとともに、「学修」を後部要素とする合成語の出現率や、「学修」と共起する修飾要素についても調査、分析を進めたい。